

- 管 内 釧路管内
- 分 類 生活安全 交通安全 災害安全
- 教育課程 教科（科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動 その他
- 校 種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 毎月1回の「避難予備訓練」や災害図上訓練(DIG)による迅速な避難行動の定着
- 専門的な知識等を有する外部講師の活用による防災授業の実施
- 地域の保育所と連携を図った防災教育の推進

取組の実際

ねらい

- 児童が震度5以上の地震発生時における行動の在り方を知るとともに、訓練を通して、自分の命を守るための安全な避難方法を身に付ける。
- 教職員が震度5以上の地震発生時における役割を確認し、児童の安全を確保する手立てを身に付ける。

内 容

1 月1回の「避難予備訓練」の実施

「地震が発生した際には、まず逃げる」という意識を身に付けるために、約800m離れた町指定の津波避難場所まで走って避難する予備訓練を平成23年度から毎月1回実施している。訓練では、全児童が避難するまでに要した時間を継続的に記録し、防災教育の改善に生かしている。



避難予備訓練

2 釧路地方気象台と連携した防災授業の実施

学級活動において、気象台技官をゲストティーチャーとして招き、担任とのTTによる防災授業を実施した。釧路地方の津波の特徴や、地震が発生したときの身の守り方等について専門的な立場から説明をいただき、防災に対する理解を深めている。



気象台と連携した防災授業

3 地域の保育所との合同訓練による共助体制の確立

本校校舎に併設された保育園との「合同防災訓練」を年3回（津波2回、火災1回）実施し、約50名の園児の避難を支援する体制を確立している。

9月に実施した合同訓練では、児童が園児の手を引いて避難するなど、災害時における共助意識が育っている。



保育所との合同訓練

4 「災害図上訓練(DIG:ディグ)」の実施

3年生以上において、学級ごとに「災害図上訓練」を実施している。児童は自分たちが住む地域の地図を囲み、協議を通して地域の防災力や災害への強さ・弱さを認識するとともに、発達の段階に応じた災害時の対応策を考えている。



災害図上訓練

成果と課題

- 毎月の「避難予備訓練」をはじめとする組織的・継続的な取組を通して、児童に「地震等の災害時は、まず逃げる」という意識を身に付けさせることができた。
- 気象台との連携を強化し、継続的にアドバイスを受けながら防災訓練及び防災授業の一層の充実を図るとともに、防災マップや町の防災計画に基づいたハード面の整備を進める必要がある。